

令和5年度第1回狭山市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

開催日時 令和6年3月22日 午前10時～午前11時50分
開催場所 狭山市役所3階 302会議室
出席者 5名
欠席者 5名
市側出席者 企画財政部長、企画財政部次長、企画課長、企画課担当職員

会議詳細

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事

- (1) 狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
・企画課長より説明

〈質疑・意見〉

委員 転入においては国外からの転入数が2位となっており、外国人が増えている印象を受けるが、市の見解は。

市側 本市は、県内トップクラスの産業系地域であることから、労働をするために転入している外国人が一定数いると推測している。また、外国人にとっても働きながら住むのに適しているまちになっているのではないかと認識している。

委員 社会増における外国人の影響はどのように考えているか。

市側 施策の実施による日本国内での移動や国外への転出等の様々な要因があると考えているが、細かな同行は追えていない。

委員 工業団地において外国人が増えていると感じている。空き家となっていた戸建て住宅に住んでいる外国人もおり、住宅の利活用として良いことであると思う。

一方、近隣でのコミュニケーションとゴミ出しについては、課題もあると感じている。特にゴミ出しについては、ゴミの出し方が煩雑になっており難しいため、様々な言語に対応した周知ができると良いと思う。

委員 転入してきた方がどのような年代で、どのような職業に就職しているかを分析できると、狭山市ビジネスサポートセンターを活用した企業のPR等に有効的な活用ができるのではないかと思う。

市側 転出入の要因について、これまで転出入者を対象にアンケートを実施しているなかでは、住宅の購入や就職による転出入が主であると捉えていることから、住宅の取得支援や企業のPR等を実施し、更なる若い世代の転入を促進していきたい。また、施策の実施においては、様々な機会を捉えて、積極的に情報収集をしていきたい。

委員 サヤマ・ジョブマーケットにおいて高校生が出展企業に20名就職しており、素晴らしい取り組みであると感じた。
イベントの出展企業のなかでも若者に人気の企業はあるのか。

市側 今回は、工業高校を対象としたイベントであることから、モノづくりに関する企業が人気であると聞いている。

委員 普通科の高校生にも目を向けてPRしていくことで、より効果が期待できるのではないかと思う。

市側 デジタル技術を活用した産業も発展していくなかで、今後も高校生等を対象として地元の企業で働いてもらえるような取組を推進していきたい。

委員 最近では自ら情報を取りに行く人は少ない時代になっていると感じる。「共働き子育てしやすい街ランキング 2022」で県内第1位であったことについても、ホームページだけでなく、それを更に効果的にPRするような取組があったら良いと感じる。

市側 「共働き子育てしやすい街ランキング」の最新の調査では県内第2位となっている。狭山市が子育てしやすい環境であることを効果的にPRするため、SNS等を活用しながら、効果的にPRをしていきたい。

委員 子育てしやすい世代に効果的なPRすることで人口増へつながる取組となるのではないか。

市側 取組を直接的に人口増に繋げるのは非常に難しい。
「共働き子育てしやすい街ランキング 2022」で県内第1位であったことについては、電車内での車内広告の掲載やSNS等での発信を実施しており、様々な方々に見ていただける場面も増えてきていると思う。
しかしながら、人口増につながる最も大きな要因は良い物件の有無である。良い物件を選ぶにあたっては、生活環境も重視されるものであり、子育てや学校環境、老後の支援等の各種施策を総合的に展開していくことが人口増や移住・定住につながると考えている。人口増を目指す取組を基礎自治体のみで実施することは、財源等の問題もあり難しいことから、埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）な

どの広域と一緒に事業を展開していくことが必要であると考えている。

委員 市の施策を長い間見てきたが、当初示された人口推計は酷く、ショックを受けた印象がある。これだけ人口減少を食い止められているのは様々な施策を実施してきた結果であると思う。これからも様々なデータを分析しながら、施策を実施していただきたい。

委員 工業団地では技能実習生が多い印象を受ける。
技能実習生は基本的に2～3年で帰ってしまうため定住者とならず、多く転入してきたとしても人口増としては期待できないと思う。

委員 先ほど空き家の戸建て住宅に外国人が住んでいるという話があったが、おそらく企業が買い取った実習生の寮であると思う。
レンタルオフィス等で活用すると、少ない費用でリフォームが可能となることから空き家対策という面で有効的であると思う。

市側 今後の展開については未定であるが、要望を所管にも伝えさせていただく。

委員 仕事上、建設会社との取引があり話を聞くと、工業高校の高校生に就職してほしいと言っている。ハローワークにも求人を出しているが、応募が来ないと聞いたことがある。ぜひ、製造業だけでなく建設業でもジョブマーケットのような取組を実施してほしい。

委員 防犯カメラの設置について、最近、車や自転車の走行マナーが悪く、特に子どもたちにとって、とても危険であると感じる。防犯カメラで交通の危険を抑制するよう取り組んでほしい。

市側 要望を所管に伝えさせていただく。

市側 最近では、自動販売機に防犯カメラを設置している業者もあるため、設置数を増やしていくため所管でも取り組んでいるところである。
カメラ機能自体の安いため、比較的安価に設置可能である。

委員 防犯等にも力を入れ、事故の少ないまちづくりをしてほしい。

(2) 令和6年度実施事業について

・企画課長より説明

《質疑・意見》

委員 入曽駅周辺整備事業について、入間小跡地のケヤキの木の苗木を配布するという話があったが、ケヤキは成長するととても大きくなるため、環境に悪影響が出ないか不安である。

委員 魅力の発信においてはいかに端的に分かりやすく伝えるかが必要であると思う。SNSを活用してアピールする場合、学生に対してアピールするのか、その親世代にアピールするのかで有効的な手法が異なってくる。学生については、動画などの動きのあるものであれば一定時間見てもらうことができる。ホームページ等でも動きのあるものを取り入れていくとよいと思う。

市側 様々な手法による情報発信については、対象とする世代のターゲットを絞りながら、何が効果的かを考えながら発信していきたい。

委員 指標として設定しているmGAPを高めていくにはどのような取組が必要であると考えているか。

市側 mGAPは県の補助を受けるにあたり、今回初めて取り入れた指標であり、今後、推奨意欲や参加意欲を高めていくにあたっては、市民の方が中心となった狭山市の魅力を掘り起こすワークショップ等を実施し、気づいた魅力を発信しながら、市外の人にも関心を持ってもらい、移住や関係人口の増加に繋がればと考えている。

市側 最終的に市外の方に狭山に住んでいただくことがゴールではあるが、市民の方が自信を持って「狭山はいいよね」と言ってもらえることが大事なポイントになると考えている。

今回のmGAPの測定には、市民の方3,000人を対象に年代問わず、無作為抽出でアンケートを実施した。その結果を見ると、狭山市をおすすめする気持ちは弱い状況であるが、ここを高めることができれば、郊外に位置する自治体の中でもより持続的な街になれる可能性が高まると考えている。

また、それと合わせて職員についても、狭山のことが好きでないと市外の方から見ても本当にいい街なのか不安になることも多いと思うため、職員も本当に狭山のこと好きと言えるようになり、それを発信していこうという機運を高めているところである。来年度も引き続き県から補助をいただけることとなっているため、さらに新しいものを発信していきたい。

委員 埼玉県のリディングプロジェクトとして狭山市ともう一つの市に先行して実施してもらい、良い結果が出れば、それを横展開し、埼玉県全体を良くしていこうと実施しているものである。mGAPについては中間評価の5や6をつけてしまうとマイナスとなるため厳しい指標であるが、これからmGAPをどのように引き上げていくか期待している。

委員 移り住んでおり、地元がどこか考えることがある。こういった指標で近隣をうろうろしている人はmGAPにも現れないものもあるのではないかと思う。

委員 自治体として突拍子の無いことをすると、意外性で注目が集まり、PRとして効果的であると思う。

4 次回開催予定について

5 閉会